



# 冬の風物詩 勝山年の市



2



6



4



3



5



9



8



7



10

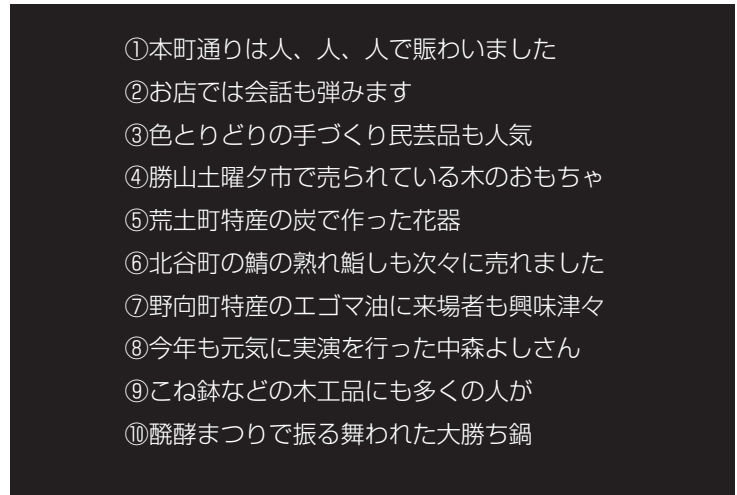
1月25日、恒例の冬の風物詩「勝山年の市」が、本町通りで開催されました。通りには所狭しと58もの店が建ち並び、晴天に恵まれたこともあって、早朝から多くの来場者があり、約3万2000人の人出で賑わいました。

こね鉢やまな板などの木工品、草木染めや竹細工などの民芸品、鯖の熟れ鮓しや鮎の巻き寿司、エゴマ油などの地域特産品、各種団体からの腕自慢の

作品や飲食物の販売も行われました。また、「むらの達人」コーナーでは、年の市の顔ともなった、中森よしさん（鹿谷町北西俣198）がごさぼうし作りを始めると、多くのかたが足を止めて見入っていました。

市民会館では、「奥越前醗酵まつり」が同時開催され、日本や世界の醗酵食文化を体験することができました。

- ①本町通りは人、人、人で賑わいました
- ②お店では会話も弾みます
- ③色とりどりの手づくり民芸品も人気
- ④勝山土曜夕市で売られている木のおもちゃ
- ⑤荒土町特産の炭で作った花器
- ⑥北谷町の鯖の熟れ鮓しも次々に売れました
- ⑦野向町特産のエゴマ油に来場者も興味津々
- ⑧今年も元気に実演を行った中森よしさん
- ⑨こね鉢などの木工品にも多くの人が
- ⑩醗酵まつりで振る舞われた大勝ち鍋



## 勝山市旧機業場の名称決定

### はたや記念館

# 「ゆめおーれ勝山」

昨年の11月に勝山市旧機業場の愛称を募集したところ、市内外から358点の応募がありました。開館準備委員会において厳正に審査した結果、名古屋千種区在住の中山善富さんの作品である「ゆめおーれ勝山」を最優秀作品として採用することに決定しました。

中山さんがこの名称を考えた理由は、「繊維と関係が深い建物であるため、『夢を織る』という意味で親しみやすく平仮名で表現しました。また、『おーれ』は、スペイン語の『オーレ（行けー）』と掛けて、未来へ前進する勝山のイメージと重ねました。」とのこと。

選考の際には、委員から「勝山全体を盛り上げる感じがする。」「響きが良く新鮮である。」「などの意見をいただいています。

一方、施設の名称については、これまで市指定文化財の名称である「勝山市旧機業場」を使ってきました。しかし、交流・情報の受信発信・ミュージアムの各機能を持たせた施設として生まれ変わること、また、日本の近代化産業遺産として建物を当時の趣を残したまま保存し、「繊維のまち勝山」を知ることができる記念すべき建物とすることから、施設の名称を「はたや記念館「ゆめおーれ勝山」」とすることになりました。

オープンを待つ、はたや記念館「ゆめおーれ勝山」

問 旧機業場開設準備室

( ☎ 88-8105 )

## Mountain Mania

### 動物の影で天気を予想する?!

勝山市国際交流員  
スティーブン・シュローダー



皆さんは『お天気キャスター』と聞いても、きっと大きいリスのような動物をイメージすることはないでしょう。でも、アメリカ合衆国とカナダでは、毎年2月2日にグラウンドホッグという動物が春の訪れを予想する天気占いの行事があります。その日にグラウンドホッグは冬眠から覚め、自分の影を見ることによって春の到来時期が分かるとされています。グラウンドホッグが影を見て驚き、冬眠していた巣穴に戻ると「冬はあと6週間は続くだろう。」と言われ、影を見ずそのまま外に出ると「春は間近に迫っている。」というように占われます。北米各地で同様のイベントが行われますが、アメリカ・ペンシルバニア州パンクサトニー市の祭りが最も有名です。そこで飼育されている「フィル」というグラウンドホッグは、2月2日に注目の的になります。フィルの占いの結果がニュースで放送されたり、新聞に載ったりし、楽しい話題になります（人民がフィルの占いを信じるかどうかは別ですけどね）。



グラウンドホッグデーの由来は明らかではありませんが、移民によってヨーロッパからアメリカ大陸に伝えられてきた風習だそうです。ハリネズミを対象にしたドイツの同様の俗信が直接の起源とされます。現在のようパンクサトニーのグラウンドホッグデーは、1887年に、地元新聞編集者の発案で行われ始めたそうです。

ところで、今年パンクサトニーのフィルは自分の影を見てしまいました。ということは、冬はまだ終わっていないのでしょうか。でも最近かなり暖かくなってきている勝山では、それは信じにくいですね！